

歴史教育と子どもの歴史認識 — アンケート調査をもとに —

鈴木 浩

はじめに

本稿は、公立中学校の社会科教師を務める筆者が、次の二点を問題意識とし、横浜市内の3校の中学校で意識調査を行った結果についての研究ノートである。

- ① 我々が授業を行ったことが、生徒の歴史認識にどのような影響を与えているのだろうか。
- ② 子どもは、歴史学習に何を求めているのだろうか。

毎日の授業を行っている社会科教師が、こうしたことを知らずに授業をしていることについて、不安を覚えたと言ってもいい。

意識調査の用紙（アンケート用紙）は次ページの通りである。

対象は、中学1年生と3年生とし、それぞれの学校1クラスずつで調査を実施した。

なお、本稿の中では、それぞれをA中、B中、C中とする。三つの学校は、横浜市の公立中

学校であり、それぞれ比較的地域性の異なる学区をもつ学校である。

1年生と3年生に実施した意味は、小学校での歴史学習に対する意識を調査するために、中学校1年生に尋ね、中学校での歴史学習については、中学校3年生に問うということである。

1 印象に残る人物とできごと調査より

まず始めに、小学校の学習指導要領で掲げられている歴史人物について、印象に残っているものを3名挙げてもらうことにした。さらに、小学校の学習指導要領を基本として、若干中学校での内容も加えた、歴史事象から三つを選んでもらう設問をした。

こうしたことを聞くことで、「何を印象深く感じるか」ということが分かり、そのことが歴史認識と関連するのではないかと考えたからである。

〈印象に残る人物ベスト5〉

1位	ペリー	34.3%
2位	織田信長	32.3%
3位	徳川家康	27.4%
4位	卑弥呼	23.9%
5位	ザビエル	21.9%

〈印象に残る人物ワースト5〉

1位	足利義政	0人
2位	小村寿太郎	1人
	大隈重信	1人
	本居宣長	1人
	歌川広重	1人

〈印象に残る歴史事象ベスト5〉

1位	ペリー来航	35.7%
2位	天下統一	28.5%
3位	江戸幕府	25.0%
4位	太平洋戦争	22.4%
5位	鎖国	14.3%

〈印象に残る歴史事象ワースト5〉

1位	国学	1人
2位	四民平等	3人
3位	廃藩置県	3人
4位	歌舞伎	3人
5位	元寇	4人

歴史学習 意識調査 1年生用

中学校

年

- 1 小学校で学習した歴史上の人物で、特に印象深い人を下から3人選び、○をつけてください。

卑弥呼、聖徳太子、小野妹子、中大兄皇子、中臣鎌足、聖武天皇、行基、鑑真、藤原道長、紫式部、清少納言、平清盛、源頼朝、源義経、北条時宗、足利義満、足利義政、雪舟、ザビエル、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、徳川家光、近松門左衛門、歌川広重、本居宣長、杉田玄白、伊能忠敬、ペリー、勝海舟、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允、明治天皇、福沢諭吉、大隈重信、板垣退助、伊藤博文、陸奥宗光、東郷平八郎、小村寿太郎、野口英世

- 2 小学校で学習した、歴史的な事項について、特に印象深いことを下から3つ選び、○をつけてください。

原始時代の暮らし、古墳、神話、大化改新、大仏の造営、貴族の生活、遣唐使、源平の戦い、鎌倉幕府、元寇、室町幕府、金閣寺、水墨画、キリスト教の伝来、天下統一、江戸幕府、鎮国、参勤交代、歌舞伎、浮世絵、蘭学、国学、ペリー来航、明治維新、文明開化、廃藩置県、四民平等、大日本帝国憲法、日清・日露戦争、条約改正、日中戦争、太平洋戦争、日本国憲法、東京オリンピック

- 3 小学校での歴史学習で、「楽しかった」や「役に立った」と感じた学習を、下から1つ選んで記号を書いてください。

ア 先生が説明したり黒板に書いたりする	イ グループで調べて新聞などにまとめる
ウ 図書室などで調べる	エ 自分たちで調べたことを発表しあう
オ プリントで確認する	カ 意見を出し合ったり議論したりする

- 4 これから、中学校や高等学校などで、さらに詳しく学習してみたいことを下から1つ選んで記号を書いてください。

ア 自分の祖先や身近な人たちのこと	イ 自分の今住んでいる地域や、ふるさとの歴史について
ウ 歴史を変えた重要な場面で活躍した人物	エ 歴史的なできごとが、なぜ起こったのか、その原因
オ 世界の歴史のおおまかな流れ	カ 絵画や建築など、文化の歴史
キ 考古学的な遺跡や発掘	ク 入試などのテストに役立つ知識

- 5 「歴史を学習する意味」をどのように考えているか、下から1つ選んで記号を書いてください。

ア 高校入試でよい成績をとる	イ 自分の生き方を考える材料
ウ 過去から未来へ、時間の流れをつかむ	エ 今の社会がどのようにできてきたかを知る
オ 社会に出て恥ずかしくない教養を身につける	カ よりよい社会を作るために過去を知る

※3年生用は若干質問の仕方を変えている

＜集計1＞

1 小学校で学習した歴史上の人物で、特に印象深い人を下から3人選び、○をつけてください。

人物	A 1	B 1	C 1	A 3	B 3	C 3	A 中	B 中	C 中	1年	3年	全計	率
ペリー	14	13	7	9	13	13	23	26	20	34	35	69	34.3
織田信長	8	12	13	13	12	7	21	24	20	33	32	65	32.3
徳川家康	9	13	9	7	10	7	16	23	16	31	24	55	27.4
卑弥呼	6	14	5	9	6	8	15	20	13	25	23	48	23.9
ザビエル	2	12	5	12	4	9	14	16	14	19	25	44	21.9
豊臣秀吉	7	10	7	7	7	2	14	17	9	24	16	40	19.9
聖徳太子	6	5	6	4	6	9	10	11	15	17	19	36	17.9
西郷隆盛	0	3	9	5	5	5	5	8	14	12	15	27	13.4
福沢諭吉	0	1	2	3	4	10	3	5	12	3	17	20	9.95
野口英世	5	7	3	4	1	0	9	8	3	15	5	20	9.95
勝海舟	3	2	7	1	2	0	4	4	7	12	3	15	7.46
源頼朝	3	3	0	5	2	1	8	5	1	6	8	14	6.97
杉田玄白	6	0	0	3	0	3	9	0	3	6	6	12	5.97
伊能忠敬	4	1	2	3	2	0	7	3	2	7	5	12	5.97
雪舟	0	3	2	3	0	3	3	3	5	5	6	11	5.47
伊藤博文	4	0	1	2	1	3	6	1	4	5	6	11	5.47
藤原道長	3	0	0	3	2	1	6	2	1	3	6	9	4.48
清少納言	0	5	0	1	1	1	1	6	1	5	3	8	3.98
源義経	0	1	1	0	4	2	0	5	3	2	6	8	3.98
木戸孝允	2	2	0	2	1	1	4	3	1	4	4	8	3.98
紫式部	0	2	0	3	1	1	3	3	1	2	5	7	3.48
東郷平八郎	0	1	3	1	0	2	1	1	5	4	3	7	3.48
小野妹子	0	1	0	1	2	1	1	3	1	1	4	5	2.49
鑑真	0	3	1	0	0	1	0	3	2	4	1	5	2.49
足利義満	1	0	1	1	1	1	2	1	2	2	3	5	2.49
板垣退助	2	1	0	0	2	0	2	3	0	3	2	5	2.49
中大兄皇子	0	1	1	0	1	1	0	2	2	2	2	4	1.99
徳川家光	2	0	0	1	1	0	3	1	0	2	2	4	1.99
大久保利通	0	0	0	3	0	1	3	0	1	0	4	4	1.99
聖武天皇	1	0	1	1	0	0	2	0	1	2	1	3	1.49
行基	0	0	1	0	2	0	0	2	1	1	2	3	1.49
平清盛	3	0	0	0	0	0	3	0	0	3	0	3	1.49
北条時宗	0	0	0	0	1	2	0	1	2	0	3	3	1.49
陸奥宗光	0	0	0	0	1	2	0	1	2	0	3	3	1.49
中臣鎌足	1	1	0	0	0	0	1	1	0	2	0	2	1
近松門左衛門	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	2	2	1
明治天皇	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	2	2	1
歌川広重	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0.5
本居宣長	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0.5
大隈重信	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0.5
小村寿太郎	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0.5
足利義政	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(註) 表内の数字は人数 右端は%を示す。以下集計2～6も同様

<集計2>

2 小学校で学習した、歴史的な事項について、特に印象深いことを下から3つ選び、○をつけてください。													
事項	A1	B1	C1	A3	B3	C3	A中	B中	C中	1年	3年	全計	率
ペリー来航	12	13	9	9	13	14	21	26	23	34	36	70	35.7
天下統一	8	15	6	13	5	9	21	20	15	29	27	56	28.5
江戸幕府	9	6	7	10	7	10	19	13	17	22	27	49	25
太平洋戦争	5	3	11	10	6	9	15	9	20	19	25	44	22.4
鎖国	1	10	3	4	5	5	5	15	8	14	14	28	14.3
日清・日露戦争	7	4	1	4	2	7	11	6	8	12	13	25	12.7
鎌倉幕府	4	6	5	2	1	6	6	7	11	15	9	24	12.2
キリスト教の伝来	4	8	1	3	4	4	7	12	5	13	11	24	12.2
古墳	3	8	1	5	2	3	8	10	4	12	10	22	11.2
原始時代のくら	3	4	3	4	4	3	7	8	6	10	11	21	10.7
金閣寺	2	3	2	4	5	5	6	8	7	7	14	21	10.7
水墨画	1	4	3	5	1	4	6	5	7	8	10	18	9.17
文明開化	3	1	5	2	2	4	5	3	9	9	8	17	8.66
明治維新	3	1	1	4	5	2	7	6	3	5	11	16	8.15
日中戦争	3	3	3	4	2	1	7	5	4	9	7	16	8.15
神話	2	3	3	1	4	2	3	7	5	8	7	15	7.64
源平の戦い	2	0	2	1	6	2	3	6	4	4	9	13	6.62
東京オリンピック	3	2	1	2	3	2	5	5	3	6	7	13	6.62
日本国憲法	3	2	0	4	2	1	7	4	1	5	7	12	6.11
大化改新	4	3	0	1	2	1	5	5	1	7	4	11	5.6
参勤交代	2	2	0	2	3	1	4	5	1	4	6	10	5.09
大仏の造営	4	2	2	0	0	0	4	2	2	8	0	8	4.07
貴族の生活	2	4	0	0	1	0	2	5	0	6	1	7	3.57
浮世絵	3	2	0	1	1	0	4	3	0	5	2	7	3.57
室町幕府	0	0	3	0	1	2	0	1	5	3	3	6	3.06
蘭学	1	0	1	1	1	2	2	1	3	2	4	6	3.06
大日本帝国憲法	0	1	1	2	2	0	2	3	1	2	4	6	3.06
遣唐使	0	2	0	2	0	1	2	2	1	2	3	5	2.55
条約改正	1	0	0	2	2	0	3	2	0	1	4	5	2.55
元寇	1	1	0	1	1	0	2	2	0	2	2	4	2.04
歌舞伎	1	0	0	1	1	0	2	1	0	1	2	3	1.53
廃藩置県	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	3	3	1.53
四民平等	0	1	0	2	0	0	2	1	0	1	2	3	1.53
国学	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0.51

(1) ペリーが1位

<印象に残るベスト5>を見ると、後に述べる学校間格差(教師による格差も含む)は全くと言っていいほど見られない。特にペリーについては、学校別の集計でも、学年別の集計でも、いずれもトップである。また、人物でも事象でもトップであり、「完全制覇」となっている。

これはいったい何を意味しているのだろうか。選んだ理由を聞いていないので、なんとも言えないのであるが、いくつか推測できることがある。

- a 外国人(西洋人)は比較的上位になりやすい(ザビエルも5位に入っている)
- b 横浜という土地柄、開港に関わる人物を

重視している

- c ペリーの肖像画が印象を強くする
- d 近世から近代へという時代の節目にあたる人物である
- e 外国が日本を無理やりに？開国したという事実が強烈である

なお、各学校における授業実践のありかたが、影響を与えたことも考えられるが、学年、学校に関わりなく「完全制覇」であるので、そのことは除いて考えてよいと考えられる。

a～eについては、小学校の学習指導要領で取り上げる42名中、西洋人は2名だけであり、その2名が1位と5位に入っているということから、印象が強くなるということはある程度言えると思われる。事象との関わりで考えても、外国と関わる事象は比較的高い順位を示すことから（太平洋戦争4位、鎖国5位、日清・日露戦争6位、キリスト教の伝来8位）も、国内のみの歴史よりも子どもにとってインパクトがあると考えてよいと思われる。

bについては、他にデータが無いので何とも言えないが、一般に、特に小学校での学習において、地域の歴史が印象づくことは、あり得ると思われる。

cについては、人物の上位について、肖像画や肖像写真が有名である人物が多いことは注意すべき事柄であろう。卑弥呼を除けば（卑弥呼は別の要素）、ペリー、織田信長、徳川家康、ザビエル、豊臣秀吉、聖徳太子、西郷隆盛、福沢諭吉、野口英世のベスト10がいずれも有名な肖像画もしくは肖像写真をすぐにも思い浮かべられるものである。反対に、すぐに肖像が思い浮かばない人物（足利義政、歌川広重、中臣鎌足、北条時宗など）は、比較的低位に甘んじていることから傍証できるであろう。図像認識の強烈さは、歴史の授業を行う際にもっと配慮されるべきである。なお、肖像画の傑作とされる神護寺の人物肖像画が、源頼朝でないということがあきらかになっており、頼朝の認知度が下がっているのは、検証されるべき事実である。

dについては、事象の上位が、いずれも歴史の大きな節目に関連していることから、はっきりしている。

eについては、キリスト教の伝来や太平洋戦争が上位にあることから、国難ともいえるピンチについて、関心が高いこととは言えると思われる。元寇が低いことは、元寇＝国難というイメージが授業の中で十分に指摘されていない可能性が考えられよう。

今回の調査からみる、「ペリー完全制覇」については、以上のような分析が成り立つと思う。次に注意を引くのが、信長＝天下統一、家康＝江戸幕府の組み合わせが、2、3位であるのに対し、秀吉が6位（19.9%）になったことである。大人の感覚的な常識から言うと、「太閤秀吉」が人気が高く、「残忍な信長」や「たぬきの家康」は人気やや落ちると考えてしまうが、今回の調査では異なる結果になった。非常に、限定的な調査であるので、ここからものを言うのはどうかと思うが、秀吉が比較的低い数値にとどまった背景には、次のデータが役に立つかもしれない。つまり、3年生の生徒が秀吉に辛い点数をつけているという事実である。後にも触れるが、ここには修学旅行との関連が想起される。A、B、Cの3校のうち、関西方面へ修学旅行を実施している学校で、いずれも数値が下がっている（A中は九州方面の修学旅行であり、秀吉の数値に変化がない）。京都へ修学旅行に行く学校が、耳塚などの学習をし、秀吉の朝鮮出兵が、生徒にマイナス印象を与えているとは考えられまいか。理由を聞いていないので、なんとも言えないが、どうもそんな気がしてならない。

卑弥呼については、古代史的なロマンのみならず「女性である」という点が反映してはいまいか。調査時に性別を問うべきかどうか考えた末、あえて性別を問わなかったために、はっきりとしたデータはないが、特に女子生徒が、女性の人物を選択した可能性は、経験上高いと思われるし、他の人物との関係からある程度の

推測はつく。42名中女性3名が挙げられている。卑弥呼(4位)、清少納言(18位)、紫式部(21位)と、全てが半分より上位に入っている。清少納言や紫式部が他の文化史にかかわる人物の低さに比べて、よく検討していると言える。むしろ、3名に絞る際に、清少納言と紫式部の両方を取り上げる生徒は少ないことが予想されることから(この2名を合わせると11位になる)、かなりの高順位といえるであろう。

さらに、ワースト5から見ると、次のような分類も、有効であると思う。

足利義政	中世	文化史
小村寿太郎	近代	政治史
大隈重信	近代	政治史
本居宣長	近世	文化史
歌川広重	近世	文化史

国学	近世	文化史
四民平等	近代	社会史
廃藩置県	近代	政治史
歌舞伎	近世	文化史
元寇	中世	対外交渉史

これは、以前から指摘されることであるが、近現代の政治史については、学習の定着度が低く、子どもにとって強い印象を与えづらいもの

となっていることが予想される。また、近世の文化史について、特に庶民文化、芸能については、授業での取り扱い方による印象度が、かなり影響するのではないかと推測できる。

(2) 維新の三傑

信長、秀吉、家康については、先述のように分析を試みてみたのであるが、「維新の三傑」についても一言しておきたい。多少なりとも歴史を学んだ者にとって、大久保の偉大さ?は強烈な印象として刻まれている。しかし、中学生にとっては、やはり西郷隆盛ということになるのであろう。これは、おそらく一般的な大人についても同じ傾向を示すと思われる。

維新の三傑については、全体として3年生の方が数値が高く、やはり中学校での学習によって印象が高まっていると言える。特にA中の3年生で大久保の認知度が高まっているのは、A中が鹿児島への修学旅行を実施したことによるものだと言える。A中においては、維新の三傑の割合が、5:4:3ということで、ほぼ同じであり、C中の14:1:1と鮮明な違いを示している。このことから、「しっかり学習」すれば、それぞれに重要な人物であることが理解されるということが言えそうと思われる。

<維新の三傑 学年別 学校別の変化>

	1年	3年		1年	3年		1年	3年
西郷隆盛	12	→ 15	木戸孝允	4	→ 4	大久保利通	0	→ 4
	A中	B中	C中					
西郷隆盛	5	8	14					
木戸孝允	4	3	1					
大久保利通	3	0	1					

(3) 学年間の差 学校間の差

学年間の差異の大きいもの (人数)

ザビエル	19	→	25
福沢諭吉	3	→	17
大久保利通	0	→	4
豊臣秀吉	24	→	16
野口英世	15	→	5
勝海舟	12	→	3

太平洋戦争	19	→	25
金閣寺	7	→	14
明治維新	5	→	11
鎌倉幕府	15	→	9
大仏造営	8	→	0
貴族の生活	6	→	1

学校により格差の大きいもの (人数)

	A中	B中	C中
福沢諭吉	3	5	12
杉田玄白	9	0	3
伊藤博文	6	1	4
清少納言	1	6	1
藤原道長	6	2	1

	A中	B中	C中
太平洋戦争	15	9	20
鎖国	5	15	8
日本国憲法	7	4	1
浮世絵	4	3	0
室町幕府	0	1	5

小学校で大仏の造立について、詳しく学習していることは周知の事実である。逆に、中学校では「小学校で詳しく学んでいるはず」という意識が強くて、やや軽く扱う傾向があるのも否めない。「貴族の生活」についても、十二単など、小学校で活動的な学習が行われている実態がある。

1年から3年にむけて大きく増加している人物が、すべて近代であることは、大きな特徴と言えよう。やはり、中学校での学習で「今の社会がどのようにできてきたか」を歴史を学習する意味としてあげている生徒が多いこと（後に詳述する）と関連していると思われる。できごとについても、3つのうち2つが近代であることから、こうした傾向は顕著である。（金閣寺をあげているのは修学旅行とも関連しているか？）

また、学校による差が大きいというのは、地域性というよりも、どのような授業が行われたかにかかってくるだろう。おもしろい授業、印

象深い授業が実践されれば、そのことが強い印象として残ることがよくあらわれている。これは、非常におそろしいこととも言えるだろう。A中では印象深いとして3割の生徒があげている杉田玄白がB中では0である。反対にB中で2割近い生徒があげている清少納言はA中では1人である。そのほか、できごとでも日本国憲法をあげている生徒がC中では1人、浮世絵がC中で0人、室町幕府がA中0人など、ある学校ではそれなりの数値を示している事象が、0乃至1などという極端な数値を示す場合も多い。

そこで、反対に、すべての学校で3割以上の生徒が印象深いとあげた項目をチェックしてみることにした。

人 物：ペリー 織田信長 卑弥呼
ザビエル

できごと：ペリー来航 天下統一
である。

それと、分析をしていて気付いたことだが、C中が3割を越える項目が多く、A中が3割を

時代別整理 増加ベスト3を時代別に分けると 近代5 中世1
減少ワースト3を時代別に分けると 古代2 中世2 近代2

越える項目が少ないということも分かった。C中では小規模校で社会科の教師が少なく、同じ教師が社会の授業を受け持っている可能性があり、生徒が「大事だ」と思う事象が集中しているということも考えられる。反対にA中に問い合わせしてみると、現在の3年生については、歴史学習を4名の教師が担当していたことが分かった。してみると、「これは大事な事象だ」と認識する場合、教師の「ある種の傾向」が影響する可能性は十分あり得ることと考えた方がよいと思われる。

2 授業方法との関連

生徒がどんな授業を役立つと感じ、また、楽しいと感じるかについて質問してみた。結果をみて一目瞭然のように、A中の3年が、圧倒的「ア 先生が説明したり黒板に書いたりする」を選択した率が高く、あまり意味のある調査にならなかった。これは、そもそもA中では、教師が板書とレクチャーとで進める授業しか行わ

れてこなかったことを示していて（実際の聞き取りの結果事実そうであった）、他の項目に○をつける生徒がほとんどいなかったことに起因している。

そこで、A中3年を除いて表を作りなおしてみると、〈集計3-2〉のようになる。

こうしてみると、1番多くの生徒が「楽しい」「役立つ」と思っているのが「図書室などで調べる」であることがわかる。2位の「グループで調べて新聞などにまとめる」と比較してみると、次のことがわかる。まず一つは、「図書室で調べる」は中1、中3で大差ないのに比べ、「グループで調べて新聞などにまとめる」は、各校とも3年で数値を落としている。これも、小学校ではグループ学習が多く実施されているのに比べ、中学校ではあまり行われていないということが影響していると考えられる。また、学校や学年に関係なく、実際にどのような授業が行われているが、ストレートにあらわれるということがわかる。

ただ、それなりに課題解決的な、あるいは発

〈集計3-1〉

3 小学校での歴史学習で、「楽しかった」や「役に立った」と感じた学習を、下から1つ選んで記号を書いてください。														
項目	A1	B1	C1	A3	B3	C3	A中	B中	C中	1年	3年	全計	率	
ア 先生が説明したり黒板に書いたりする	7	3	3	23	5	9	30	8	12	13	37	50	25.6	
イ グループで調べて新聞などにまとめる	9	11	7	2	4	7	11	15	14	27	13	40	20.5	
ウ 図書室などで調べる	7	11	2	2	10	10	9	21	12	20	22	42	21.5	
エ 自分たちで調べたことを発表しあう	2	3	1	1	4	2	3	7	3	6	7	13	6.7	
オ プリントで確認する プリントで確認する	5	3	7	8	7	2	13	10	9	15	17	32	16.4	
カ 意見を出し合ったり議論したりする	1	4	4	1	3	5	2	7	9	9	9	18	9.2	

〈集計3-2〉

	A中	B中	C中	1年	3年	全計	率
ア 先生が説明したり黒板に書いたりする	7	8	12	13	14	27	17.1
イ グループで調べて新聞などにまとめる	9	15	14	27	11	38	24.1
ウ 図書室などで調べる	7	21	12	20	20	40	25.3
エ 自分たちで調べたことを発表しあう	2	7	3	6	6	12	7.6
オ プリントで確認する	5	10	9	15	9	24	15.2
カ 意見を出し合ったり議論したりする	1	7	9	9	8	17	10.8

表を含む、活動的な学習が実施されている学校では、やはりそうした学習の方を選んだ生徒が多いことは言える。もちろん、日常的に「板書とレクチャー」の授業が行われ「たまに」活動的（または開放的）な授業が行われると、そちらの方が印象深くなるということは言えるであろう。

このように、生徒が「楽しい」「役立つ」と感じる歴史学習の方法については、かなり学校の姿勢、教師の姿勢が大きく影響していることは間違いのないことだと言える。歴史学習は「学習内容」が多く（実は学習指導要領では、個々の細かい内容は指定していないのだが、教科書の記述・・・近頃はだいぶ減ってきていたのだが、今次改定でおそらく復活するであろう・・・高校入試問題・大学入試問題が細かいところを突くので、中学校の授業も対応せざるを得ない）、活動的な授業が実践しにくい傾向がある。また、教師自身が、個別の歴史事象をよくわかっていないために、開放的な授業を行う自信がないということも強く影響している現状がある。

しかし、「何のための歴史学習か？」を考えるならば、「もし歴史が受験科目で無かったら」どんな授業ができるか考えてみると良いのではないだろうか。もう少し教師自身が「受験の呪縛」から解き放たれて「学習者を主体に」考えてみてもよいのではないだろうか。

3 本当は学びたい内容

そこで、子どもは本当はどんなことを学びたいと思っているのか、探ってみようと考えて、「高等学校や大学などで、さらに詳しく学習してみたいこと」を次のア～クから選んでもらうことにした。

- ア 自分の祖先や身近な人たちのこと
- イ 自分の今住んでいる地域や、ふるさとの歴史について
- ウ 歴史を変えた重要な場面で活躍した人物
- エ 歴史的なできごとが、なぜ起こったのか、その原因
- オ 世界の歴史のおおまかな流れ
- カ 絵画や建築など、文化の歴史
- キ 考古学的な遺跡や発掘
- ク 入試などのテストに役立つ知識

この結果について、まず、全体をみると、

- 1位 歴史を変えた重要な場面で活躍した人物
- 2位 入試などのテストに役立つ知識
- 3位 歴史的なできごとが、なぜ起こったのか、その原因

となっていて、ワーストが「自分の今住んでいる地域や、ふるさとの歴史について」で5%未満であった。

ここで、私が注目したいのが「入試などのテストに役立つ知識」についての回答である。

〈集計5〉

	A中 1年	B中 1年	A中 3年	B中 3年	C中 1年	C中 3年	A中	B中	C中	1年	3年	全計	率
ア	6	7	6	4	1	4	12	11	5	14	14	28	14.3
イ	1	3	2	0	1	2	3	3	3	5	4	9	4.59
ウ	12	7	8	6	4	7	20	13	11	23	21	44	22.4
エ	3	4	7	7	5	4	10	11	9	12	18	30	15.3
オ	1	2	5	6	1	4	6	8	5	4	15	19	9.69
カ	1	1	1	3	1	6	2	4	7	3	10	13	6.63
キ	2	2	3	2	4	0	5	4	4	8	5	13	6.63
ク	6	10	3	5	7	9	9	15	16	23	17	40	20.4

各校の学年別の推移をみると、

＜「入試に役立つ知識」学年別の変化＞				
	1年		3年	
A中	6(18.8%)	→	3(8.6%)	
B中	10(27.8%)	→	5(15.2%)	
C中	7(29.2%)	→	9(25.0%)	

と3校とも学年をおうごとに割合が下がっている。しかし、A、Bの2校がほぼ半数になっているのに比べて、C中はほとんど変化がなく、これは明らかに地域差を示していると言える。

さらに、「ク」を選んだ割合を1、3年を合わせて、学校毎に比較すると、

A中13.4% B中21.7% C中26.7%

と、なっていて、A中とC中では2倍の差に及んでいることがわかる。

また、3校を合わせて学年毎に比較すると、

1年次 25% → 3年次 9.6%

となり、半分以下に下がっていることがわかる。

これらの結果の中で、私が最も注目したいのは、「入試などのテストに役立つ知識」を選んだ子どもの割合が1年次よりも3年次において非常に大きく下がっていることである。

この数字をどう考えるかということも、なかなか難しい問題ではあるけれども、少なくとも、子どもが学校の歴史の授業に求めているものの1位が「入試対策」では無いと言うことは確かであるし、さらに、それは実際に中学校での歴史学習を終えた、そして受験を間近に控えた3年生で割合が下がるということも事実である。この結果は、筆者の現場感覚からもうなずけるものと言える。子どもは、存外受験対策を意識せず、学習に取り組んでいるものなのである。もちろん、否定的に捉えるならば、学校の授業には受験対策を期待せず、そちらは塾でまかなっているという意識もあるかもしれない。しかし、私のこれまでの25年の授業経験で言えば、そうではなくて、子どもはもっと本質的なことをつかみたいという気持ちが強いのだと思う。それは、次の調査項目への回答からもある程度推察

できると考える。

なお、いわゆる「身近な地域」や「身の回りのできごと」に関する数値が低いことは、おそらく次のような原因が考えられる。まず、中学校において、地域教材の開発が十分でないことが予想される。次に、地域史が中央史とどう結びついているのか、教師がきちんと説明できるような教材内容研究が不十分である。さらに、中学生になると。身近なことから離れて、社会、国家、世界という大きな枠組みで歴史を考えたと思うようになる。以上のようなことが、私の経験上からの推察だと言えると思う。

4 歴史を学ぶ意味について

「歴史を学習する意味」をどのように考えているか、次のように聞いてみた。

ア 高校入試でよい成績をとる

イ 自分の生き方を考える材料

ウ 過去から未来へ、時間の流れをつかむ

エ 今の社会がどのようにできてきたかを知る

オ 社会に出て恥ずかしくない教養を身につける

カ よりよい社会を作るために過去を知る

ここで私が注目したいのは、1年→3年の変化である。ア・イ・オの三項目が減少し、ウ・エ・カが増加しているということである。各項目の増加の割合も非常に大きく、ウが倍増、エが1.5倍、カに至っては3倍の伸びを示している。もう、これは誰がどう分析しても次のようなことが明らかであろう。それは、小学校での学習は「自分のこと（小学校では最近「自分事」という造語がよく用いられる）」から、中学校でも歴史学習を終えた子どもは、「今の社会がどのようにできたのか」「過去から未来への時の流れをつかむ」「よりよい社会を作るために過去を知る」という「社会と関わる」ことを大切だと考えるようになってきているということである。これは、子どもの発達段階からの

＜集計6＞

項目	A 1	B 1	C 1	A 3	B 3	C 3	A中	B中	C中	1年	3年	全計	率
ア	3	13	6	5	6	6	8	19	12	22	17	39	19.5
イ	5	4	2	1	3	1	6	7	3	11	5	16	8
ウ	6	3	3	4	8	9	10	11	12	12	21	33	16.5
エ	7	7	6	12	13	7	19	20	13	20	32	52	26
オ	8	12	4	7	4	3	15	16	7	24	14	38	19
カ	2	0	3	7	1	9	9	1	12	5	17	22	11

- 1位 今の社会がどのようにできてきたかを知る
- 2位 高校入試でよい成績をとる
- 3位 社会に出て恥ずかしくない教養を身につける

変化という面も大きいだろうが、中学校での歴史学習の成果と言って間違いの無いことである。

子どもたちは、自分の受験や入試、テストの点数にももちろんこだわりはもっている。それは、今の進学のシステムからすれば、当然のことであろう。それは教育制度の問題である。しかし、子どもは、そういう「自分事」の世界のことだけではなく、「社会をよりよくしたい」という願いの中で、歴史を学ぶ意味を見出し、「もっと知りたい」「獲得した知識をもとに未来を考えたい」と思っているのだ。むしろ、教師の方が、その期待に十分答えていないのではないだろうか。

むすびにかえて

今回の調査からは、子どもが「歴史を学ぶ意義」について、「今の社会、未来の社会を過去から未来への時間の流れの中で捉えること」だと考えていることがあきらかになった。もちろん、同年代が100万人いる中学生の、ほんの一部の調査であるとはいえ、私はかなり正確な傾向を表していると思っている。また、「大事だ」とか「もっと学びたい」などと思っていることは、時代の節目、転換期のできごとやそれに関わる人物であるということもはっきりしている。今回の調査で言えば、子どもは、今の社会が形成されてくるおおもとは、「どうも開国が深

く関係しているのじゃないか」と考えていると思って間違いのないであろう。それと、「どうやら、信長→秀吉→家康・・・江戸幕府という流れが大きな時代の節目みたいだぞ」という感覚ももっていることがうかがえる。さらに、「ザビエル来航から鎖国へと歩んだ日本の歴史も私たちの文化に大きく関連しているな」ということにも気づいているのではなかろうか。この三点は、異論もあろうが、大まかに日本史を捉えているとって過言ではないと思われる。つまり、「子どもは良く分かって」いるとも言えるのである。しかし反面、少し違うのではないかと思うところもある。例えば、天皇制の問題や日本という国号の問題、議会制民主主義の導入の問題、そして、太平洋戦争と戦後政策などについて、中学生であれば、もう少し考えて欲しいところである。今回のアンケート項目の立て方が、小学校の学習指導要領を土台にしたので、その辺にアンケート自体の問題もあったかと反省はする部分もあるが、古代史と現代史をあげた子どもが非常に少なかったことは、一つの傾向と言える。

授業方法との関連のところでも若干ふれたけれども、こうしたところは教師の教え方、取り上げ方に影響を受けやすい部分であり、小中学校の現場で、古代・中世・現代（中世の応仁の乱までもひどく数値が低い）が、どう扱われているのか気になるところでもある。

私たち教師は、子どもが知りたがっていること、求めている歴史の本質、未来につながる時間の流れといったことをもう少し意識して、そのために学習指導要領に定められた学習内容を、どう料理していくか、考えていくべきである。「はじめに内容ありき」で、その内容を「いかにおもしろおかしく伝えて覚えさせるか」ではなくて、身につけさせたい能力や、子どもが知りたがっている本質から考えなくては、子どもの期待に応える授業を構想することはできないであろう。このような視点に立って授業を構築するならば、例え、学習指導要領や教科書、授業時数、入試問題など様々な縛りがあっても、実り多き意味のある歴史学習を子どもとともに作り上げることができるのである。子どもの現実と教えなければならないことをつなぐのが、授業であり教師の仕事なのである。